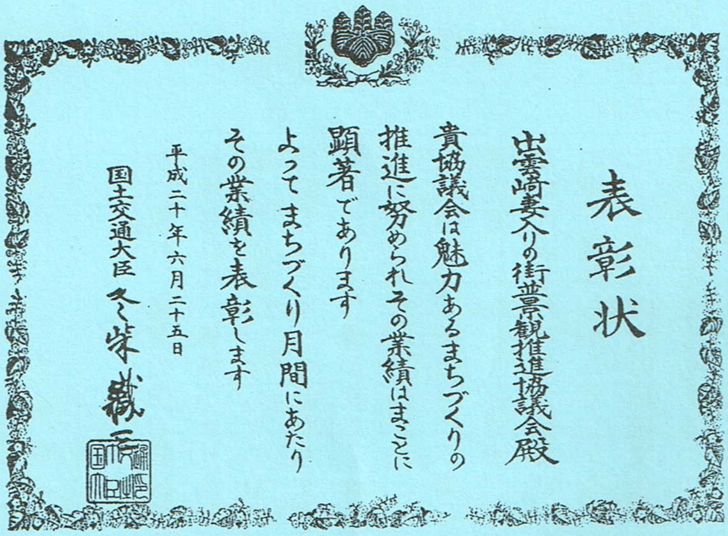
かわらばん 妻入り

事務局
新潟県出雲崎町
教育委員会
☎0258-78-2250
FAX　78-4559

「妻入りの街並」保存活動で
国土交通大臣表彰受賞


表彰状
出雲崎妻入りの街並景観推進協議会殿
貴協議会は魅力あるまちづくりの推進に努められその業績はまことに顕著であります
よってまちづくり月間にあたりその業績を表彰します
平成二十年六月二十五日
国土交通大臣　冬柴鐵三

国土交通大臣表彰受賞式に出席して

会長　渡辺　常侃

第26回まちづくり月間国土交通大臣表彰式が、6月25日東京千代田区都市センターホテルで行われ、当推進協議会が、まちづくり功労者として受賞致しました。

その功績内容は「全国的にも珍しい3・6㎞に連なる妻入りの街並景観の保存を目指すため、町内外へ妻入りの貴重性をアピールしながら観光を含めた『まち全体の活性化』を最終目標として、まちの緑化運動や、のれん・表札の製作・設置、街並マップの制作活動を継続的に行っており、当地区の景観形成において大きく貢献している。」というものです。該当表彰は32道都県で54団体でした。当協議会のような保存活動団体は少なく、34団体がハード面に力をおく土地区画整理組合等がその対象となっておりました。又6月は、まちづくり月間でまち交大賞（松山市が受賞）をはじめ関連行事の表彰式も合わせてあり、式典終了後にはシンポジウムもあって、受賞者のほかに三百人を超える関係者が出席され盛大に行われました。

今回の受賞は平成8年から故・鈴木会長をはじめ佐々木前会長、それにスタッフが精力的に街並保存や景観維持に力を注いで来た結果であり、また行政からの力強いご支援とこの町を愛する住民の皆さんの熱心なご協力を頂き継続して事業を行ってきたことがこの賞に繋がったものと思っております。

シンポジウムでは「地域が担うまちづくり・まちおこし」と題して、まちづくりのキーポイントとなるのは「人」であり熱心な方々がどれだけ積極的に参画するかによりその成功は左右される。と云うことを強調されておりました。

この受賞を契機により一層住民の皆さんと一体となって、更に充実した活動を展開しなげればと強く感じました。今後もどうぞよろしくお願い申し上げます。

妻入りの街に思いを寄せて

出雲崎小学校
校長　吉田　一郎

「ピギピーピヨ！」とイソヒヨドリのさえずりが響き、「ドドドー！」と漁船のエンジン音が沖に向かい、妻入りの街の夜が明けます。やがて、街中に浜焼きのこうばしい香りが漂い、食欲をそそり、一日が動き出します。

私は、四月より妻入りの街に住まわせてもらっています。初めての地にもかかわらず、不思議に違和感を感じません。「なぜだろうか？」自分なりに考えてみました。

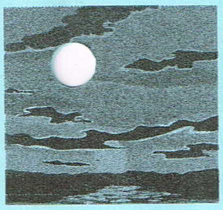
一つ目は、人情豊かで安心感を感じることです。家と家との距離が、人と人との距離の短さになり、互いに気心の知れる仲となることが、人情と安心感につながっているのかなと感じました。

二つ目は、妻入りの街並は、心を癒し、落ち着かせてくれるように感じることです。私が生まれた昭和三十年代の頃は、時間が緩やかに流れ、集落の中で伝統文化が継承されて、風情がありました。妻入りの街は、今もその頃にどこか似ているような気がします。風情が心を落ち着かせてくれるような気がします。

三つ目は、街の中に、凛とした華が感じられることです。良寛さんに代表される偉人を尊び、誇りに思う気持ちからでしょうか？また、天領の時代の伝統文化を受け継いでいることもあるのでしょうか？いずれにしても、心豊かに生きていることに感心します。それにしても海の街の料理は、天下一品！素晴らしい街の華です。

ちょっとレトロな雰囲気が、お洒落になり、人情と情緒と風情が心地よさとなって、人々の心を引きつけます。妻入りの街は、日本の原風景です。いつまでも残したい原風景です。

私は、ここに住まいできることが、なによりであり、楽しみです。



出雲崎に赴任して

出雲崎中学校
教頭　岩村　整治

出雲崎中に昨年度赴任し、確か一年の最初の美術の授業で出雲崎の町並みについて述べた。有り難いことに美術資料集の最初に新潟の美術がある。村上市の町屋、守門村の佐藤家等と共に大きく出雲崎の町並みが載っている。

尚、偶然にも私は村上市や守門村に勤務・居住したことがある。

相当前のことだが、海岸伝いに天領の里、石油博物館を観て、柏崎へ向かったことがある。肝心の町並みを見過ごした。今と違い、「日本の美術」No.１６７号至文堂でも、関川村の渡辺邸や新発田の足軽長屋しか載っていなかった。

初めて観る出雲崎の町並みはそれらと比較すると、集合体としての景観が、ずば抜けている。冬の景色ももの凄いことが分かる。

迷うことなく、町教研の要項表紙に、美術資料の写真を使うことにした。あの写真を撮った場所探しに商工会議所を訪ね、町職の方から案内していただいた。

出雲崎の町並みは、自己流だが次の手順で理解を更に深めていくつもりである。

まず全体を見渡す所に立つ。次に一人で町並みを歩いてみる。そうすると、歴史的役割と山が海岸近くに迫る土地柄の生活と人々の交流往来を想える。そのなかに詩聖良寛の姿も現れる。

そして町並みとの対話から生活を反映した典型である原風景の一つの姿が見えてくる。

大げさに思われるかもしれないが、私にはそれしか20年以上も芸術大学院生が絵にし続けた理由を見出せない。原風景の一部を切り取ったのが絵だからである。

そして、歴史的町並みを形作る自分の家や地域に愛着と誇りを持つとしたら、それは素晴らしいことである。これも立派な豊かな心、アイデンティティの体現である。

塩谷（旧神林村）の皆さまを迎えて

羽黒町　佐々木　貞治

去る四月二十七日（日）冷たい風の日、塩谷活性化推進協議会の皆様二十五名（小学生五名含む）が当町視察に見えました。当日は県北五市町村合併に伴う新村上市長選挙の投票日、早朝に投票を済ませ遠路お見えになりました。

「塩谷」は岩船郡南西部を源とする荒川の河口北側に展開、海岸に沿って直線的に連なる妻入りの街並みが在り、中世末期には二百石商船の寄港地として栄えた地域と聞いています。私たちは昨年塩谷を訪ね視察交流を行いました。そんな経緯から今回の訪問になったのではと思っています。

長途休む間も無く、妻入り会館を見学、全体会議・顔合わせ。当協議会の渡辺会長から「昨年の塩谷視察の際のお礼・当協議会の活動状況」の報告と視察に対する歓迎の挨拶、塩谷の柏櫓洋平会長から「来意と日程について」協力要請がありました。真剣な質疑後天領の里まで、妻入りの街並みや史跡について磯部友記雄さんを始め、当協議会会員の説明を聞きながら歩かれました。途中、中年のアマチュア画家（？）十数名が思い思いのスタイルで熱心に街並みをスケッチしている姿が見られ、これは塩谷では見られない光景だ、なんとか塩谷にも取り入れられないか、興味を持たれたようでした。そのことを五月四日付の村上新聞は【出雲崎「海雪」後押しに学ぶ】で今回の現地視察を報じています。

街並みの印象は家々の間口・道幅など多少の違いはあるが、全体として塩谷によく似ていて他所の町へ行った感じがしない、何より史跡や寺社の多さに驚いた、歴史の重みを肌で感じたと感想がありました。

天領の里で昼食後、一行は良寛堂まで歩き次の訪問地山古志へ向かわれました。塩谷の子供たちが山古志でも出雲崎でと同じように「しおや」と大書された幟を押し立て元気にアピール活動を…。

新村上市は町興し運動の先進地、その中で塩谷の活性化が埋没せず、今後も継続され大きな成果をあげられるように期待しています。

相場川に想う

井鼻　松永　信義

『出雲崎町の寺泊寄りにある井鼻海岸はきれいだ。この海岸に立って眺める佐渡、弥彦山は美しい。昔はこの海岸の砂浜も広がったもので、小学校の運動会が催されたこともある。

この川が海にそそぐ、いわゆる川口が、流れのいたずらで上（かみ）に向いたり、下（しも）に向いたりする。それが米相場のあがり、さがりと一致したということから、相場川と名付けられたという。この川にかかる海岸線の橋―井鼻橋をはさんで水車屋、茶屋、民家がたちならんでいた。』以上の文は、昭和六十三年発行の、阿部五郎著・出雲崎散歩・井鼻海岸の稿より。文中の水車屋についての想いを、記す。

川口上流千五百m位の所に小さな堰を設け左右に導水路が作られていた。その水で上・下水車屋（かみ・しもみずぐるまや）さんの二基の水車を廻し、米を搗（つ）き製粉をしており水田を潤し、町内防火水槽の用水源となっていて、余す所なく流水を利用していた。今、世界は地球温暖化防止のためクリーンなエネルギーが求められているが、百数十年も前にどんな小さな流れでも利用していた先人の知恵を今一度考えてもいいのではないだろうか。

相場川の急カーブ部分、先端に導水路のトンネル口が二つ有り、獅子鼻と名付けられていた。今は道路改良工事のため風景は一変している。溜池、菱の実、蛍、赤腹イモリ等々、相場川とともになつかしい限りである・・・。

妻入りの街（三十三）

住吉町　磯野　猛

人物往来（長谷川巳之吉）

大正十二年東京で「第一書房」という出版社が創立されました。出雲崎町木折町出身の長谷川巳之吉という人が創ったものです。

この時出版された本が、松岡譲の「法城を護る人々」という本で一躍出版界の注目を集めました。その後も詩人の佐藤春雄、堀口大学、西脇順三郎、萩原朔太郎、室生犀星、若山牧水、三好達治、三木露風などの詩集や作品を出版して昭和三年には出雲崎町の佐藤耐雪翁の手になる良寛遺墨集や江原小弥太、順作晋長らの良寛関係の本なども出版しました。

松岡譲は長岡出身で夏目漱石の娘婿になって大正、昭和と文学で活躍した人です。西脇順三郎は小千谷の人で昭和の新詩運動の推進者として活躍した人です。詩人の萩原朔太郎、室生犀星、佐藤春雄、三木露風らはこの第一書房から立派な詩集を出しております。中でも堀口大学のものは越後人ということで特に豪華本といえる本を出版しました。そして当時無名であった若い詩人の三好達治らの出版で世に出た作家も多く林芙美子、阿部知二、永井荷風の作品も手がけ特に大田黒元雄の音楽関係の本も多く出版しました。

これら新人発掘は昭和五年ころの事業で老舗の岩波書店と肩を並べるほどのレベルのものを出し、雑誌では「セルパン」という本を出し当時の東京近辺のコーヒー店では必ずといってよいほど置かれ多くの読者を魅了しました。喫茶店に行けば必ずセルパンがあると云われたほどでした。またパールバックの大地などは爆発的な売行であったと伝えられています。第一書房は利益の追求だけでなく新人の発掘と当時売れないとされた宗教関係の本や教育、演劇、哲学に及び中でも出雲崎出身の唐沢富太郎氏の教育関係の本も出版しております（昭和十七年）長谷川巳之吉さんのセルパンの中に母の逝去という一節があります。母の死に帰郷して幼年時代の回想を書いたものでその中に

この町は他人に見せたくないほど貧しい町ではあるが、ただ一つ誇りとなるものは、ここに良寛堂のあることと、その良寛堂の建立者である佐藤耐雪さんの存在である。以下略

長谷川巳之吉

明治二十六年（一八九三）十二月二十八日出生、巳年生まれで巳之吉と命名

生家は阿部姓の米穀商であったがある事情で生後間もなく木折町の長谷川家（現長谷川材木店）に養子として引き取られる。

養母は巳之吉をひとりっ子として慈しみ町内でも評判であった。巳之吉は「セルパン」という本の中で「僕を養った十年間の育て方は慈愛と厳格との交響楽のようなものであったと思う」と誌しています。

二十年八ヶ月に及ぶ出版事業で数千点に及ぶ本を出した。（大正十二年から昭和十九年）

昭和四十八年没

主たる出版物

大正十二年　法城を護る人々
十三年　佐藤春雄詩集
十四年　大田黒元雄　歌劇大観
〃　洋楽夜話
土田敏詩集
ジュル・ロメオン科学の奇蹟
土田杏村　変愛論
堀口大学　月下の一群
大正十五年　柴田天馬訳　聊斎志異
矢野峰人　詩学雑考
昭和二年　日夏耿之介定本詩集
堀口大学訳　ヴェルレエヌ詩集
岸田國士　屋上庭園
リルケ詩集・西条八十詩集
昭和三年　萩原朔太郎詩集
佐藤吉太郎詩集　良寛遺墨集
昭和四年　室生犀星詩集
昭和八年　西脇順三郎　ヨーロッパ文学
以下略

推進協議会総会開催

　出雲崎妻入りの街並景観推進協議会の総会を六月十一日に開催し、前年度の事業報告及び決算報告、今年度の事業計画及び予算、役員について承認及び決定をいただきました。

　前年度は、中越沖地震の影響で、「街並ギャラリー」等、活動を中止した事業もあり、少し物足りない一年でしたが、今年度は気持ちも新たに、協議会会員が一丸となって活動していきたいと思います。

　今年度の各グループの事業計画は、次のとおりです。

Aグループ

○先進地視察

　街並みがきれいに整備されているところや、地域づくり・街の活性化に熱心に取り組んでいる所に視察に行きたいと思います。

○空き家・空き地情報連絡調査

　今年度も、空き家・空き地情報の調査を随時行い、状況を把握していきたいと思います。

Bグループ

○おもしろ看板の設置

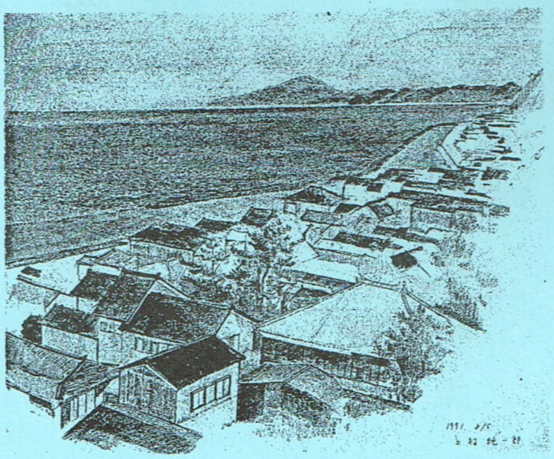
　出雲崎の昔話を看板にし、地域の皆さんはもとより、散策に訪れた方々から楽しく『妻入りの街並み』を歩いていただける様にと今年度も看板を製作し設置する予定でいます。皆さんの知っている地域の昔話がありましたら、情報をお寄せください。また、看板の設置場所を提供いただける方も合わせてお知らせくださいます様、お願いいたします。

Cグループ

○かわらばんの発行

　かわらばん「妻入り」を年間三回発行（四・八・一月）

No	住　所	氏　名	備　考
1	尼瀬	広瀬　眞弘	地区推薦
2	尼瀬	大森　正雄	地区推薦
3	尼瀬	星野　俊彦	地区推薦
4	尼瀬	田中　正美	地区推薦
5	尼瀬	渡邊　森一郎	地区推薦
6	尼瀬	内山　昭栄	地区推薦
7	石井町	野崎　勝彦	地区推薦
8	羽黒町	中川　惣吉	地区推薦
9	羽黒町	安部　和久	地区推薦
10	羽黒町	田辺　雅巳	地区推薦
11	鳴滝町	中越　孝一	地区推薦
12	鳴滝町	徳永　幸子	地区推薦
13	木折町	外山　美智子	地区推薦
14	井鼻	松永　信義	会計
15	木折町	長谷川　隆	
16	羽黒町	高坂　一弘	
17	別ヶ谷	大谷　茂	監事
18	石井町	磯木　ヨシエ	
19	川西	田中　政孝	
20	大門	磯部　友記雄	
21	住吉町	磯野　猛	
22	木折町	内藤　実	
23	羽黒町	曽根　良子	
24	鳴滝町	小林　等	監事
25	井鼻	渡辺　常侃	会長
26	羽黒町	佐々木　貞治	
27	住吉町	村越　隆夫	副会長
28	石井町	納谷　稔	
29	石井町	関根　一祥	副会長



つれづれに・・・

妻入り会館・来訪者のひとこと

○古い町並みをたずねて全国を歩いています。出雲崎は人も町も素晴らしい所でした。（東京都墨田区）

○面影かすかに残る出雲崎街道、良寛様に導かれてしばしたたずむ。（群馬県太田市）

○なつかしい出雲崎です。もう二十年以上前、子供たちと東毛臨海学校へ来た楽しい思い出がよみがえってきました。あの海水浴、臨海学校の校歌・・・ありがとうございました。（群馬県太田市）

○天領の里を通るたびに、一度妻入りの街並を見たいと思っていました。今日は桜の咲く静かな街並を昔はどんな風だったかと思いながらのんびりと歩きました。（新潟市東区）

○知り合いの柿倉先生の故郷、やっと訪ねることができました。これから良寛さんの菩提寺を訪ねます。（兵庫県西宮市）

お知らせ

街並みギャラリー　十月十一日から十三日開催予定

昨年は、中越沖地震の影響で開催を見合わせた「街並みギャラリー」を、十月十一日（土）から十三日（月）の三日間開催します。

全部で三〇〇点を数える、東京藝術大学大学院生による街並みスケッチ画を妻入りの町屋で展示いたします。是非、ご鑑賞下さい。

にいがた協育プロジェクト　「海のステージ」参加者募集中！

新潟日報社主催の「にいがた協育プロジェクト」第3回『海のステージ』が、8月24日（日）に当町で開催されます。

すでに、新潟日報紙面にてイベント内容が案内されておりますが、ワークショップや街並み散策など盛り沢山の内容になっております。

問合せ:新潟日報社企画事業部
電話０２５—３７８—９３６０

事務局着任にあたって

出雲崎町教育委員会
社会教育係　帆苅　純一

この四月から、新しく「妻入りの街並景観推進協議会」の事務局に着任いたしました。旧新津市の生まれで、前職は寺泊の某旅館という、出雲崎とはおよそ縁遠い者でしたが、縁とは不思議なもので、結婚を機にこの町に住み始め、三年の月日が経ちました。

出雲崎も新津も、石油で栄えた歴史があり、このことにも自分なりには少なからずの縁を感じておりますが、このたび、この出雲崎の歴史の代名詞とも呼べる「妻入りの街並」の景観を保全し、町の活性化を目指す当協議会の事務局に着任いたしましたことを大変嬉しく思っております。

なにぶん、「出雲崎歴」が浅く、ひとつひとつの事柄がすべて勉強になる毎日ですが、「妻入りの街並」の歴史に触れながら、精一杯頑張りたいと思います。

あとがき

（凍える空から海に降る雪は）で始まるジェロさんの「海雪」皆さんご存じですネ。二月一七日に天領の里でジェロさんの生の歌を聴いたときは驚きでした。すばらしい歌唱力又、日本語のうまさ、それと演歌の心を持ち合わせていました。CDの発売日に和島の「つたや」に買いに行ったのですがすでに完売でがっかりしながら帰ったことを思い出しました。

ジェロさんがまた出雲崎に来ますよ。八月十日に天領の里でのコンサート。これも皆さんご存じですネ。紅白歌合戦に出場できますように、応援よろしくお願いいたします。当日、出雲崎との実況中継があるといいですね。

未婚の女性に朗報です。ジェロさんは日本人の女性と結婚したいそうです。あなたにもチャンスが有るかもしれません。

石井町　納谷　稔